

# 郷土かわらばん

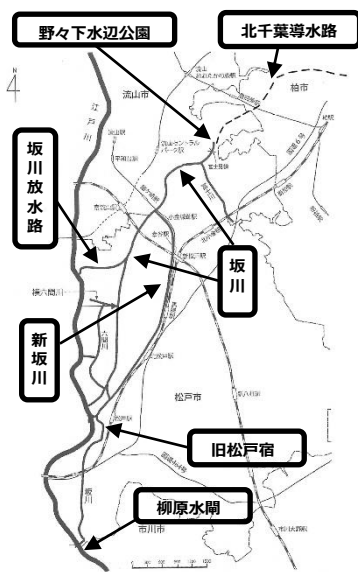
## 坂川と地域住人の暮らし

### 坂川は実は〇〇〇に つながっている!?

現在の坂川は、野々下水辺公園を水源とし、流山市・松戸市を流れて市川市国府台で江戸川にそそぐ川です。では、坂川の水源がどこにつながっているか、知っていますか？ 実は、地下水路と手賀川を通じて利根川につながっているのです。

坂川もその一部になっている、江戸川と利根川を結ぶこの水路は「北千葉導水路」として昭和四十九（一九七四）年に着工、平成十二（二〇〇〇）年に完成しました。その重要な役割の一つが、手賀川・坂川流域での洪水を防ぐことです。かつての坂川は「逆川」とも書かれるなど、たびたび逆流し洪水を起こす川でした。

今回は、「洪水のない坂川」になるまでの歩みをご紹介します。



現在の坂川周辺図

「チェック！流山のむかし」P.97の図に一部加筆・修正

### 江戸時代までの坂川周辺

中世までの坂川沿いの土地は低湿地だったと考えられています。耕地として開発されてきたのは江戸時代初期のことでした。いくつかの新田が開発されましたが、もともと低湿地だったこれらの新田では水防が大きな課題でした。坂川が流れる土地と江戸川とのあいだの低地は傾斜が小さく、台地から流れてくる水も合わさって水がたまりやすい性質がありました。そのため、江戸川が増水して坂川よりも水位が高くなると水があふれて逆流し、洪水になることが多くありました。

こうした水害を防ぐための川ざらえや流路開削の工事が始まったのは江戸時代の中頃のこと

です。記録にあるもので最も古いのは、享保八（一七二三）年の横須賀橋から古ヶ崎村にかけての開削です。

### 約二〇〇年前、坂川が ほぼ現在の流路に

その後の大規模な改修工事は文化十（一八一三）年と天保六（一八三五）一八三六）年に行われました。これにより、坂川は松戸宿を経て国府台まで掘り継がれ、現在とほぼ同じ流路となりました。

この工事は安永十（一七八一）年流山村ほか十一か村が出願したものが最初とされます。この願い出はその後も何度も出されますが、許可はなかなか下りませんでした。享和元（一八〇一）年になってようやく願いが取り上げられ、実地測量が行われました。

工事を願い出たのは松戸宿より北側の村々（上郷）と鱈ヶ崎村・流山村・木村でしたが、改修工事で田畑を失うのは松戸宿より南側の村々（下郷）であったため、下郷では反対運動が起きました。結局、上郷が土地代の弁償や家の引越料の負担、下流の川ざらえを行うことなどを条件に和解

森の図書館  
twitter  
@N\_mori  
noto



発行  
流山市立  
森の図書館  
指定管理者  
株式会社  
すばる

し、工事が行われます。大工事のため坂川に関係しない周辺の村々からも人足（労働力）が集められ、その費用は莫大なものとなりました。

### 渡辺庄左衛門三代の尽力

安永十年の出願から天保七年の工事完了まで、五十年以上にわたり坂川の改修に携わったのが、齋ヶ崎村の名主・渡辺庄左衛門です。充房・寅・睦の三代にわたって尽力しました。

出願費用等一〇〇〇両を立て替えたほか、天保期の工事では人足十五万八〇〇〇人のうち十万八〇〇〇人の人足請負を依頼されるなど、多大な貢献を果たしたといわれています。



「阪川治水記」の碑

流山市齋ヶ崎 東福寺境内

### 近代までつづく改修工事

#### ― 柳原水閘・坂川放水路など ―

しかし、こうした工事を経て坂川の水害はなくなりませんでした。明治三十七（一九〇四）年、江戸川からの逆流を防ぐため、それまでの木造の水門に代わり、レンガ造りの「柳原水閘」が設けられま

した。現在は稼働していませんが、松戸市指定有形文化財、土木学会 選奨土木遺産、近代化産業遺産として現地に保存されています。

さらに、昭和に入ってから、齋ヶ崎で分岐して松戸市根本で再度合流する「新坂川」、松戸市小金で分岐して西進し江戸川に流れ込む「坂川放水路」が作られました。松戸排水機場なども設置され、現在では動力による治水が行われています。



「柳原水閘」

出典：国土交通省 関東地方整備局 江戸川河川事務所  
<https://www.ktr.mlit.go.jp/edogawa/edogawa00228.html>

### 「先輩」利根運河の今昔

江戸川と利根川を結ぶ川としては、利根運河がよく知られています。北千葉導水路ができる前は、利根運河が江戸川と利根川とを結ぶ役割を担っていました。

利根運河が通水したのは明治二十三年のこと、延べ二百二十万人の労働力をもって開削されました。当初は江戸川と利根川とをショートカットする舟運の道として作られました。鉄道や自動車での輸送が発達したことで、昭和初期には舟運路としての役割を終えます。現在は近代化産業遺産に認定されたほか、運河

水辺公園が整備され、近くに住む人々の憩いの場となっています。



現在の「利根運河」

### 参考文献

- ・『流山の史跡をたずねて』 流山市教育委員会 斎書房 1974年
  - ・『流山研究におどり 第4号』 流山市立博物館友の会 斎書房 1985年
  - ・『ふるさと流山のあゆみ』 流山市立博物館 流山市教育委員会 2015年
  - ・『チエック！流山のむかし』 流山市立博物館 流山市教育委員会 2016年
  - ・『坂川と人々の暮らし』 みやぞの池と坂川を活かしたまちづくり市民の会 2017年
  - ・『松戸市史料 第2集』 松戸市誌編纂委員会 松戸市 1958年
  - ・『松戸市史 中巻・近世編』 松戸市誌編纂委員会 松戸市役所 1978年
- いずれも流山市立図書館の所蔵資料です。  
協力：流山市立博物館